飛鳥時代

名前

問1　「和をもって貴しとなし、さからうことなきを宗（むね）とせよ」という言葉や、「三宝（仏・法・僧）をあつく敬え」といった条文が記された法令の目的として、最も適切なものはどれですか。（2018年 茨城県公立入試 類似）

1. 身分にとらわれず、才能ある人材を中央政府に登用するため
2. 土地や人民をすべて国家のものとし、地方支配を強化するため
3. 律令に基づいた裁判の基準を定め、刑罰の不平等をなくすため
4. 争いを避け、役人としての心得や仏教を重んじる精神を説くため

問2　天智天皇の死後の皇位継承争いとその後の政治の動きについて説明した文として、正しいものはどれですか。（2024年 岩手県公立入試 類似）

1. この争いを機に武士の勢力が台頭し、政治の実権が貴族から武士へと移り変わるきっかけとなった。
2. 争いの結果、律令制度は廃止され、地方の有力豪族による分割統治が再び行われるようになった。
3. 争いに勝利した大海人皇子が即位し、律令制度を基盤とした天皇中心の国家体制の整備が進んだ。
4. この争いによって、中国の唐との外交関係が完全に断絶し、国風文化が発展する要因となった。

問3　飛鳥時代、聖徳太子（厩戸王）は中国の進んだ制度や文化を学ぶため、小野妹子らを中国へ派遣しました。当時、約300年ぶりに中国全土を統一していたこの王朝の名称として正しいものを選びなさい。（2023年 静岡県公立入試 類似）

1. 明
2. 唐
3. 隋
4. 宋

問4　7世紀後半、日本（倭国）は朝鮮半島への出兵で大敗したことをきっかけに、急速に国家体制の整備を急ぐこととなりました。この時期の歴史的な流れについて説明した文として、正しいものはどれですか。（2020年 奈良県公立入試 類似）

1. 藤原京を造営した後に白村江の戦いが起き、その混乱に乗じて壬申の乱という後継者争いが発生した。
2. 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。
3. 壬申の乱で勝利した持統天皇が、百済を救援するために白村江の戦いを引き起こし、その戦費をまかなうために藤原京から平城京へ遷都した。
4. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利したことで、日本は朝鮮半島での影響力を強め、その記念として藤原京を造営した。

問5　663年の白村江の戦いでの敗戦後、唐や新羅の侵攻に備えて、飛鳥時代に九州の防衛拠点であった地域を守るために築かれた遺跡として最も適切なものはどれですか。（2022年 宮崎県公立入試 類似）

1. 日光東照宮
2. 大野城跡と水城跡
3. 東大寺南大門
4. 平等院鳳凰堂

問6　607年に派遣された使節において、当時の中国の皇帝に「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す…」で始まる国書を届けたとされる、代表的な人物は誰か選択してください。（2017年 大分県公立入試 類似）

1. 中臣鎌足
2. 小野妹子
3. 鑑真
4. 阿倍仲麻呂

問7　大化の改新において、土地や民をそれまで支配していた有力な豪族から取り上げ、国家（天皇）が直接支配するものとした制度を何と呼びますか。（2017年 和歌山県公立入試 類似）

1. 守護・地頭
2. 班田収授の法
3. 公地公民
4. 版籍奉還

問8　推古天皇の治世における出来事として、聖徳太子や蘇我馬子とともに進められた政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2026年 静岡県公立入試 類似）

1. 大宝律令の完成、平城京への遷都、和同開珎の鋳造
2. 公地公民の制、班田収授法の実施、防人の設置
3. 冠位十二階の制定、十七条の憲法の公布、遣隋使の派遣
4. 検地の実地、刀狩令の公布、身分統制令の発令

問9　663年に朝鮮半島で起こった白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた後、大和政権は九州の防衛を強化しました。このとき、博多湾から太宰府へ侵攻してくる敵を防ぐために築かれた、全長約1.2kmに及ぶ大規模な土塁と堀で構成された防衛施設を何といいますか。（2018年 福島県公立入試 類似）

1. 山城
2. 防人
3. 烽火
4. 水城

問10　聖徳太子が建立した法隆寺に代表される、日本で最初の本格的な仏教文化について、その名称として正しいものを選びなさい。（2024年 三重県公立入試 類似）

1. 国風文化
2. 東山文化
3. 飛鳥文化
4. 天平文化

問11　飛鳥時代から律令国家の形成期において、大王が自らを中心とする国家体制の確立を目指した主な目的として、最も適切な記述を選びなさい。（2026年 宮崎県公立入試 類似）

1. 地方豪族の権力を強化し、連合政権による分割統治を行うため
2. 豪族に各地の領地を自由に支配させ、武力による統一を進めるため
3. 中央集権体制を整えて豪族の対立を抑え、東アジアの国際情勢に対応するため
4. 民衆に参政権を与えて自由な社会を作り、国民の権利を守るため

問12　645年に中臣鎌足とともに蘇我氏を倒し、大化の改新を主導した中大兄皇子が、後に即位して名乗った称号として正しいものを、次の中から選びなさい。（2018年 京都府公立入試 類似）

1. 天智天皇
2. 後醍醐天皇
3. 推古天皇
4. 天武天皇

問13　663年に朝鮮半島で行われた白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した中大兄皇子（天智天皇）は、その後、国外からの侵攻の脅威にさらされることとなりました。この危機に対応するために行われた、日本で最初となる全国的な戸籍の作成や中央集権化の目的として、最も適切な説明を選びなさい。（2026年 埼玉県公立入試 類似）

1. 兵役や租税を確実に課すことで軍事力を高め、国家の防衛体制を強固にするため
2. 蘇我氏などの有力豪族を武力で打倒し、天皇が直接政治を行う仕組みを作るため
3. 難波宮に都を移すことで大陸との交易を活発にし、国の経済を豊かにするため
4. 聖徳太子が定めた十七条の憲法に基づき、仏教を中心とした平和な国づくりを行うため

問14　7世紀後半、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた倭（日本）は、唐や新羅による報復や侵攻を恐れ、外交の拠点である大宰府を守るために大規模な防衛施設を築きました。大宰府の北側に位置し、全長約1.2kmにわたる巨大な土塁と、その外側に水を貯めた堀を組み合わせた防衛施設の名称として適切なものはどれですか。（2019年 島根県公立入試 類似）

1. 柵
2. 防人
3. 水城
4. 烽火

答え合わせ・解説

問1	答え 4 争いを避け、役人としての心得や仏教を重んじる精神を説くため	十七条の憲法の第一条には、豪族同士の争いを戒める「和をもって貴しとなす」という言葉が、第二条には仏教への信仰を促す「あつく三宝を敬え」という内容が記されています。これらは、勢力争いを続けていた豪族たちをまとめ上げ、天皇を支える役人としての自覚を持たせることを目的としていました。人材登用を目的とした「冠位十二階」や、土地・人民の公有化を目指した「公地公民」の考え方とは区別して理解する必要があります。
問2	答え 3 争いに勝利した大海人皇子が即位し、律令制度を基盤とした天皇中心の国家体制の整備が進んだ。	壬申の乱に勝利した天武天皇は、乱によって豪族たちの勢力が弱まったことを背景に、天皇への権力集中を図りました。これが律令国家（法に基づく中央集権国家）の形成を加速させ、次代の持統天皇による飛鳥浄御原令の施行や大宝律令の制定へとつながっていきました。
問3	答え 3 隋	6世紀末に中国を再統一した隋に対し、日本は「遣隋使」を派遣しました。小野妹子は607年に派遣された代表的な人物です。この時期の日本は、推古天皇の摂政であった聖徳太子らを中心に、大陸の優れた政治制度や仏教文化を取り入れることで、天皇中心の国づくりを進めようとしていました。
問4	答え 2 白村江の戦いでの敗戦後、国内の守りを固める必要が生じ、のちに壬申の乱を経て実権を握った天武天皇らが藤原京の造営や律令の整備を進めた。	663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した倭国は、大陸からの侵攻に備えて防衛を強化するとともに、強力な中央集権国家を形成する必要に迫られました。その後、672年に起きた壬申の乱に勝利した天武天皇、およびその跡を継いだ持統天皇によって、日本初の本格的な都城である藤原京の造営が行われ、律令国家の仕組みが整えられていきました。
問5	答え 2 大野城跡と水城跡	白村江の戦いでの敗戦後、唐や新羅からの侵攻に備えて大宰府を防衛するために作られたのが大野城跡や水城跡です。これらは飛鳥時代に整備されました。なお、平等院鳳凰堂は平安時代、東大寺南大門は奈良時代創建・鎌倉時代再建、日光東照宮は江戸時代に造営された建造物となります。
問6	答え 2 小野妹子	聖徳太子は小野妹子を遣隋使として派遣し、中国（隋）の皇帝である煬帝に国書を渡した。この国書の内容は、これまでの中国王朝への従属的な立場ではなく、対等な立場での外交を求めたものであり、当時の日本の自立意識の現れとされている。
問7	答え 3 公地公民	それまでの日本では、豪族がそれぞれ「部曲（かきべ）」や「田荘（たどころ）」と呼ばれる民や土地を私有していましたが、これを天皇が支配する公的なものへと改めました。これにより中央集権化が進み、税（租・庸・調）を効率的に集めるための戸籍作成や、口分田を割り当てる班田収授の法の土台となりました。
問8	答え 3 冠位十二階の制定、十七条の憲法の公布、遣隋使の派遣	推古天皇・聖徳太子・蘇我馬子の協力体制下では、才能ある人材を登用する「冠位十二階」（603年）、役人の心得を説いた「十七条の憲法」（604年）、そして対等な外交を目指した「遣隋使」の派遣が行われました。これらはいずれも、飛鳥時代における国家基盤を強化するための重要な事例です。
問9	答え 4 水城	白村江の戦いで敗北した大和政権は、唐や新羅による日本本土への侵攻を強く警戒しました。特に九州の政治・外交の拠点であった太宰府を守るため、その北側に巨大な堤防のような土塁を築き、さらに外側に水を蓄えた堀を設けることで、博多湾方面からの敵の進入を阻止しようとしました。この施設は「水城」と呼ばれ、現在の福岡県にその遺構が残っています。
問10	答え 3 飛鳥文化	7世紀前半、聖徳太子が政治を執り行った時代を中心に栄えた文化を飛鳥文化と呼びます。法隆寺の建築や仏像などには、中国の南北朝時代の文化や、さらに西方のインドやギリシャの影響も見て取ることができます。
問11	答え 3 中央集権体制を整えて豪族の対立を抑え、東アジアの国際情勢に対応するため	唐や新羅などの緊迫した東アジアの国際情勢に直面した日本は、豪族同士の対立を防ぎ、天皇を中心とする強力な中央集権国家を築く必要がありました。そのため、豪族の私有地や私民を廃止し、国家が直接統治する体制へと改められました。
問12	答え 1 天智天皇	645年の乙巳の変において蘇我入鹿を倒した中大兄皇子は、新政府を樹立して大化の改新を推進しました。その後、近江大津宮（滋賀県）に都を移して即位し、日本初の全国的な戸籍である庚午年籍を作成するなど、天皇を中心とする律令国家の基礎を築きました。
問13	答え 1 兵役や租税を確実に課すことで軍事力を高め、国家の防衛体制を強固にするため	白村江の戦いでの敗北は、当時の日本にとって唐や新羅が日本列島へ侵攻してくるかもしれないという深刻な危機を意味していました。天智天皇は、国防を強化するために「庚午年籍」という日本初の全国的な戸籍を作成し、人民を直接把握することで、兵士の徴集や軍事費となる租税の徴収を確実に行える体制を整えました。これが中央集権国家の形成へとつながる重要な一歩となりました。
問14	答え 3 水城	白村江の戦いでの大敗後、天智天皇は唐・新羅連合軍の日本本土上陸を阻止するため、朝鮮半島に近い北九州の防備を固めました。大宰府の北側に築かれた「水城」は、平地に巨大な堤防のような土塁を築き、博多湾側に水を蓄えたもので、敵軍の侵攻を物理的に遮断する目的がありました。これに対し、周辺の山々に築かれたものは「山城（朝鮮式山城）」と呼ばれます。